

今週（10月26日から10月30日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、国内勢の調達を中心に▲0.035～▲0.008%のレンジでの出会いで始まった。全般的な調達ニーズの強さは変わらないものの、一部の先でレートを切り下げる動きが見られたため、レート水準は先週から低下した。無担保コールO/N物加重平均レートは、日を追う毎に低下していった。ターム物に関しては、ショートターム物で▲0.02%近辺での出会いが散見された。日銀当座預金残高は、26日は短国の発行要因により約485兆円まで減少し、その後は各種買入オペによる資金供給を受け、490兆円近辺まで増加した。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは30日に2W物・20,000億円がオファーされ、1,601億円（期落ち額2,801億円）と札割れとなった。

10月28日～29日に開催された金融政策決定会合では、現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.100～▲0.080%のレンジでの取引となった。業者の売物はあまり膨らまず、投資家の資金調達を中心に出会いを付け、レートは安定して推移した。

SCは個別銘柄では2y413～418、5y139～145、10y338～360、20y169～174、30y63～68、40y11～13など、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペが増額されたこと等を受け、需給の改善が見られた。3M物は▲0.080%台後半、6M物は▲0.103%近辺出会いと前週の入札時より底堅く推移した。一方で、1Y物は新発2年債との対比などから売りが入り、▲0.130%台出会いとやや軟調な推移となった。

27日に実施された短国買入オペは、前回から5,000億円増額の25,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.000%と、しっかりした結果となった。

30日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.085%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0845%、按分落札利回▲0.0800%と、小甘い結果となった。結果発表後のセカンダリマーケットでは▲0.092～▲0.090%出会いと、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は週間償還総額1兆2,000億円程度に対して、週間発行総額1兆1,000億円程度と若干の償還超となった。月末発行にかかり鉄鋼・機械・電力業態において大型発行が見られたものの、銘柄の広がりはありませんでした。市場残高は24兆円程度で推移した。

引き続き業者・投資家の玉確保意欲が旺盛な中、発行レートはタームの長短に関わらず、概ねマイナスとなった。CP等買入オペの按分レートが低下しない中、発行レートがジリジリと低下しているのは、新型コロナオペへの担保需要が考えられる。

27日にはCP等買入オペが6,000億円オファーされた。足許の発行レートが過去最低水準で推移していることから、レートの低下が期待される一方で、月末発行での在庫の入替ニーズも見込まれていた。結果は平均落札レート▲0.025%・按分レート▲0.033%と、前回（平均▲0.021%・按分▲0.038%）比で平均レートは低下、按分レートは上昇となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
10/26（月）	23,494.34	0.030	104.88	△ 0.016	△ 0.083	4,849,000
10/27（火）	23,485.80	0.025	104.79	△ 0.019	△ 0.090	4,864,300
10/28（水）	23,418.51	0.020	104.22	△ 0.024	△ 0.094	4,891,100
10/29（木）	23,331.94	0.025	104.39	△ 0.026	△ 0.100	4,896,400
10/30（金）	22,977.13	0.035	104.58	△ 0.029	△ 0.090	4,893,200

来週（11月2日から11月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/2 (月)					9月の米建設支出 10月のISM 製造業景況指数
11/3 (火)	文化の日				9月の米製造業新規受注・出荷・在庫
11/4 (水)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 金融政策決定会合議事要旨(9月16・17日分 8:50) 10月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 26,000億円 11/5借入			米FOMC(1日目) 9月の米貿易収支 10月のISM 非製造業景況指数
11/5 (木)	11月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	交付税借入 11,000億円 11/13借入			米FOMC(2日目) 英中銀MPC結果発表
11/6 (金)	9月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 9月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	TB3M 75,500億円 11/9発行	10Y物価連動 2,000億円 11/9借入		9月の米卸売売上高 10月の米雇用統計 9月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/2 (月)	▲ 300	▲ 33,400	▲ 33,700	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 2,800 ▲ 300	13,100 1,600 700	12,300	▲ 21,400	TB3M発行▲75500償還71300 2Y発行▲30000償還7600
11/3 (火)	文化の日								
11/4 (水)	1,000	▲ 8,000	▲ 7,000				0	▲ 7,000	
11/5 (木)	1,000	▲ 30,000	▲ 29,000				0	▲ 29,000	税・保険料揚げ 普通交付税 10Y発行▲26000 交付税借入▲11000償還11000
11/6 (金)	0	2,000	2,000				0	2,000	
週 間 合 計	1,700	▲ 69,400	▲ 67,700	—	▲ 3,100	15,400	12,300	▲ 55,400	

11/2は日銀予想、11/4以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期の後半に入るものの、無担保コールO/N物加重平均レートは横ばい圏で推移するものと見込まれる。また、9日には「2020年11月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。銀行券・財政等要因共に減少することに加え、新型コロナオペによってマクロ加算残高が増加しているため、基準比率(現在20.5%)は大きく引き下げられると予想する。レポ市場は、積み期間後半の取引となり、引き続き一部の投資家の資金調達意欲が継続すると見られ、▲0.100～▲0.070%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、6日に3M物の入札が実施予定となっている。需給が改善傾向にある中、4日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、特段のイベントはないものの、市場残高が伸び悩む中、発行レートの動向が注目される。

主要なイベントは、3日に米国大統領選挙、4～5日にFOMC、5日にMPC結果発表、6日に10月の米雇用統計等が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入